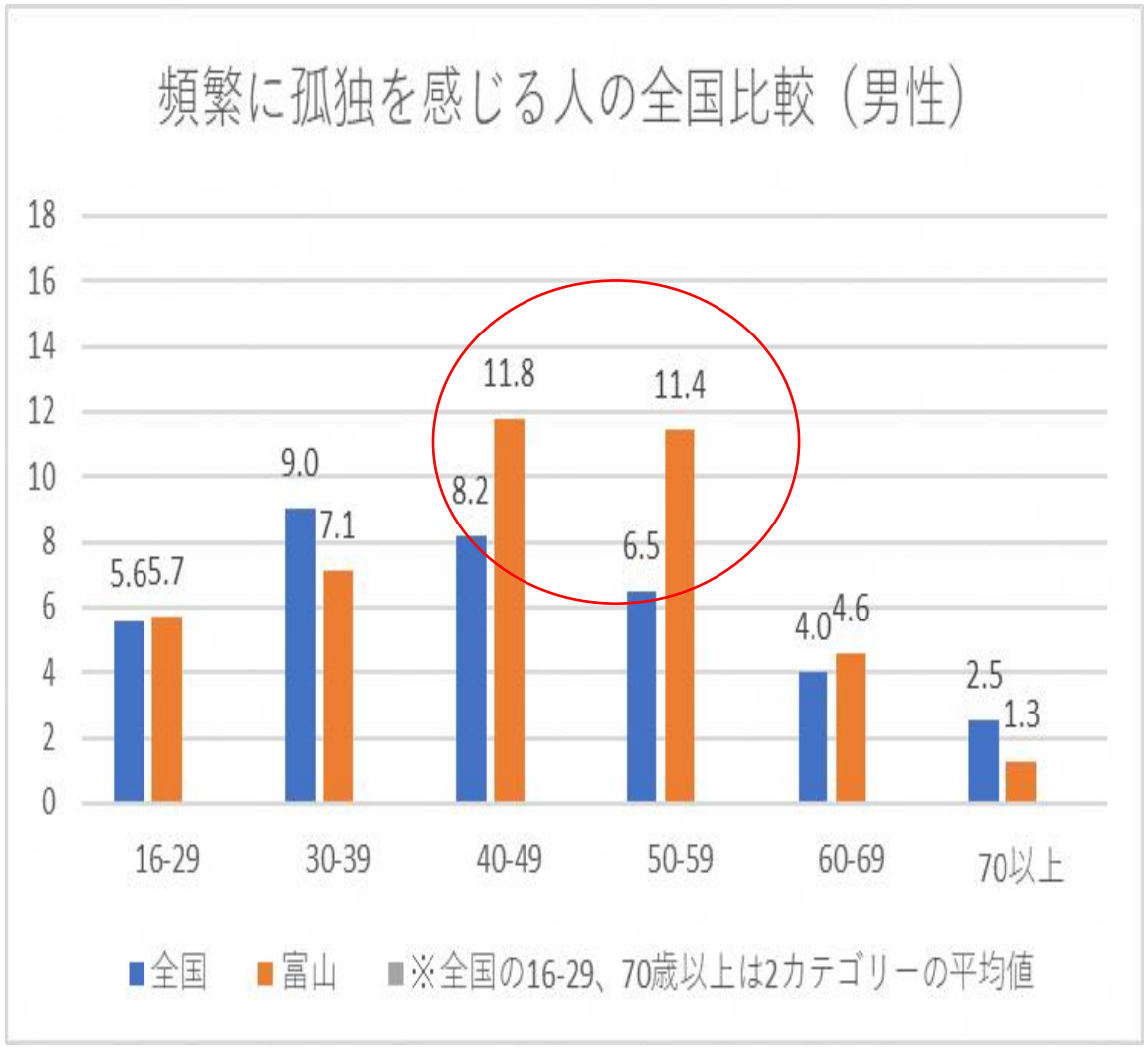
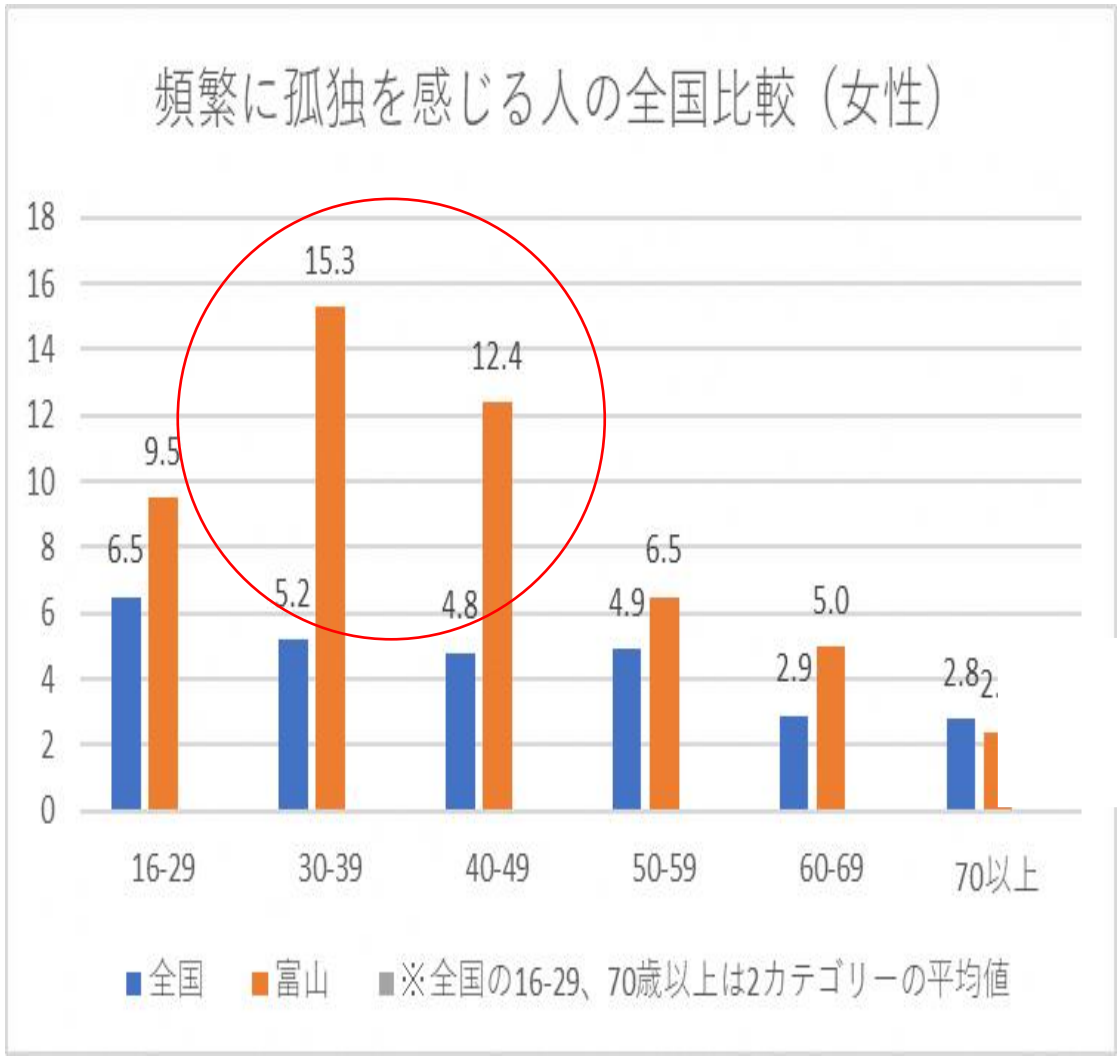
資料３

孤独感「常にある・しばしばある」：男性＜女性





主観的孤独感の頻度との関連要因

主観的孤独頻度										
	20-40才		β	p値	40-60才	β	p値	60-才	β	p値
	男性	主観的健康感低(3区)	0.292	0.001	生活満足低(3区)	0.328	<0.001	生活満足低(3区)	0.195	0.001
		不安・悩み有	0.237	0.002	職場(学習)環境悪化	0.193	<0.001	不安・悩み有	0.251	<0.001
		生活満足低（3区）	0.226	0.012	不安悩み有	0.166	0.003	相談相手無	0.160	0.005
		積極的声掛け意志無	0.159	0.035	同居ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ頻度低	0.130	0.014	家族関係悪化	0.171	0.002
					積極的声掛け意志無	0.109	0.044	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ電話少	0.197	0.001
								ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ直接多	0.130	0.034
		R^2	29.2%		R^2	27.3%		R^2	26.7%	
	女性		β	p値		β	p値		β	p値
		主観的健康感低(3区)	0.469	<0.001	主観的健康感低(3区)	0.307	<0.001	主観的健康感低(3区)	0.410	<0.001
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ直接少	0.177	0.008	相談相手無	0.168	0.002	学歴高(3区)	0.240	0.001
		就業状況低(4区)	0.152	0.016	暮らし向き悪い(3区)	0.117	0.025	職場(学習)環境悪化	0.200	0.007
		相談相手無	0.192	0.006				同居者ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ頻度低	0.181	0.015
		同居ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ頻度低	0.162	0.015				ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝSNS低	0.160	0.036
		地区(4エリア)	0.123	0.050						
		R^2	29.2%		R^2	17.6%		R^2	32.0%	

分析結果を受けた対策の検討に向けて

◎重点ターゲット

・30代女性⇒「結婚適齢期」，50代男性⇒「働き盛り」

※悩みを相談できる相手や信頼できる人を作りやすくする仕組み（×窓口⇒◎交流の場？！）

◎ポイント

・世代に対するアプローチ（20-30代女性・40-50代男性のライフイベント）
・ツールの変化についていけない人の孤独（高齢期）
・コロナ禍により社会環境が変化したことで顕在化・深刻化した孤立環境

◎目的

1) 孤独だと声をあげやすい地域づくり。声をかけやすい社会づくり
⇒共感力の高い社会とは？！

2) おしゃべりベンチのような具体的な施策を出していく

男女別ターゲット層リスクの減弱因子

男性						
	オッズ比	p値	モデル１	p値	モデル２	p値
男性40-59歳	2.80	<0.001	2.30	0.002	2.00	0.013
既婚/離別/未婚			1.56	0.006	1.45	0.027
ひとり世帯			1.95	0.036	1.85	0.062
外出週1未満			2.15	0.040	1.86	0.107
頼れ得る人なし			2.62	0.001	2.17	0.007
不安悩みあり			2.88	0.001	1.95	0.044
コロナ間接的コミュニケーション減			1.88	0.061	1.66	0.144
コロナ家族関係悪化			2.41	0.004	2.08	0.019
生活満足低い					3.90	<0.001

女性						
	オッズ比	p値	モデル１	p値	モデル２	p値
女性30-49歳	2.34	<0.001	1.78	0.017	1.61	0.056
既婚/離別/未婚			1.49	0.003	1.39	0.017
電話習慣（<週1）			1.25	0.250	1.15	0.485
コロナ間接的コミュニケーション減			1.94	0.024	1.97	0.024
コロナ家族関係悪化			1.42	0.159	1.16	0.556
相談相手なし			4.31	<0.001	3.65	<0.001
不安悩みあり			2.59	0.002	1.77	0.088
交流習慣（<週1）			1.05	0.823	1.03	0.873
賃貸住まい			1.37	0.241	1.36	0.267
生活満足低い					3.69	0.002

共通⇒婚姻・間接的コミュニケーション・家族関係

男性⇒頼れる人・（職場交流？）　　女性⇒相談相手・直接交流・電話交流